

## 第11回 全国大会・研究発表大会 ベストペーパー特別賞 受賞記

黒田 光洋

このたびはベストペーパー特別賞をいただきましてありがとうございます。発表の機会を与えていただいただけでも大変感謝しておりますが、さらにこのような賞までいただいたことは身に余る光栄です。学会や発表とは縁のなかった私にいろいろご指導いただいた専修大学名誉教授魚田先生をはじめ、情報システム学会関係者の皆様に御礼申し上げます。

本テーマ「情報システム部門のひとり運営と中堅中小企業の現実解」は、企業情報システム担当としての10年の試行錯誤を振り返りまとめたものです。どの程度の関心を持たれるかわからない中、まずはやってみるとの考えで発表に臨みましたが、予想以上の反響に驚いています。何が大変で何に苦労しているかを一番知っているのは現場におかれた人であり、その現場から生まれた答えだからこそ評価をいただいたと考えています。

論文では順風満帆の成功事例のように見えるかもしれませんが、現実はそのような甘いものではなく試行錯誤・紆余曲折の連続であり、チャレンジの7割は失敗でした。最初の数年間はほとんど成果が得られない状態であり、挫折しそうになる自分との戦いでもありました。中堅中小企業の情報システム部門の弱体化はそれほど根深く、容易に解決できるものではない事を実感しました。しかし、これまでの多くの失敗は無駄とは感じていません。失敗が多ければ多いほどうまくいったときの価値が上がり、自分の経験値が上がるのを実感できます。逆にあまり失敗をせずうまくいった場合、他にもっと良い方法があったのではないかという疑問が残り、自分の主張の根底が揺るがしかねません。あらゆる可能性を自ら検証し失敗を繰り返したからこそ確信と自信につながっています。

本テーマの一番のポイントは技術的な部分ではありません。変えることが困難なものは無理して変えようとはせず、高い壁は乗り越えるのではなくITを使って回避できないかと考えたことです。流動性の低い日本の雇用制度は情報システム部門を衰退させる一つの要因ですが、その雇用制度のおかげで散々失敗し続けても解雇されずに今の仕事を続けられています。視点や発想を変えITの進化をうまく活用すれば大きく前進できると考えます。

ひとりで自社の情報システムを立て直したと言っても、自社に閉じた環境で一事例を作っただけです。世の中には同様の悩みを抱えている中堅中小企業がたくさんあります。少しでもそれらの企業のお役に立つよう今後も研究と検証を重ねていきます。ありがとうございました。